

令和3年2月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、2月定例会市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいまして誠にありがとうございます。また、日頃から市議会をはじめ、市民の皆様の、新型コロナウイルス感染症対策へのご協力に感謝いたしますとともに、今議会におきましても、議会運営に格別のご配慮を賜り重ねてお礼申し上げます。

1) 令和3年度当初予算

「抗コロナ！ピンチをチャンスに変えていく予算」

まず始めに、令和3年度当初予算について、ご説明いたします。今回の予算編成は、コロナ禍による税収の落ち込みが避けられないため、大変厳しいものとなりました。

一般会計における予算総額は、260億1千万円で、令和2年度の274億5千万円と比較し、14億4千万円の減額、率にして5.2%マイナスの緊縮予算となっております。

しかしながら、「ピンチをチャンスに変えていく予算」と位置付け、困難な状況だからこそ、積極的にチャンスをつかんでいくという気構えで臨んでまいります。

(デジタル化元年)

まず第一に、本市が、力を入れて取り組むべき施策は、デジタル化の推進であります。私は、デジタル化に全力で挑戦していく決意であり、この決意については、年度内に取組方針を取りまとめ、その内容をお伝えいたします。本市は、令和2年11月にデジタル化推進室を立ち上げました。現在、デジタル化推進室で、さまざまな分野でどのようにデジタル技術を導入していくか、外部有識者の専門的な知見を取り入れながら、議論を重ねているところであります。今後は、全庁横断的な連携体制を整備し、さらに議論を深めていきます。

最初のデジタル化施策として、来年度前半には、市役所窓口での支払いにキャッシュレス決済を導入します。これにより、4月からの実施に向けて準備を進めている、市税等のスマホ決済と合わせ、市民の皆様の利便性と行政サービスが向上すると確信しております。

(サイクリングのまち 総社)

次に、全国屈指の福祉文化先駆都市をさらに深化させます。高齢化が進み、医療や介護に係る予算が膨大化する中、健康

な市民を増やすべく、「歩得」健康商品券事業の自転車版となる「健康サイクリング事業」を創設いたします。「サイクリングのまち 総社」として、健康政策を推進するとともに、観光の振興にもつなげていきます。

また、新たに産婦コーディネーターの配置、保育士支援金の増額、子ども見守り強化プロジェクト実施など、子育て王国総社として、子どもを産み育てやすい環境を強化していきます。

さらに、子ども、高齢者、障がい者、ひきこもりなど、福祉相談に世代を超えて対応していく、全世代型の地域包括ケアシステムの確立を目指します。

(過去最大人口更新)

本議会に上程している、第2次総社市総合計画基本構想では、令和7年の目標人口を70,500人と定めています。去る2月9日に、本市は、過去最大人口を更新し、69,707人となり、7万人に迫る勢いを見せております。総務省統計局が発表した、「住民基本台帳人口移動報告」によりますと、本市の令和2年の転入超過数が、岡山県内で第

1位、中国地方 107自治体中第2位という快挙を達成いたしました。先ほど、コロナ禍により税収が大きく落ち込むと申しましたが、一方で、大きな財源である普通交付税については、国勢調査の結果で、人口増加が反映されることを想定して2億円の増額としております。この人口増加の勢いをさらに加速させるべく、令和3年度当初予算には、移住・創業サポートセンター設置・運営費、サテライトオフィス等誘致・開設事業費を盛り込んでおります。

さらに、近年、地域未来投資促進法をはじめとして引き合いの多い企業立地を円滑に進めるため、産業用地に適した土地を調査する費用も計上しております。

(復興まちづくり)

福祉政策、人口増加策とともに、力を入れて取り組むべきは、平成30年西日本豪雨災害からの復興まちづくりであります。復興事業には、約8千万円の予算を計上しております。

まず、昭和地区の悲願でもある、美袋駅前活性化のための拠点がついに形作られてまいります。さらに、昭和地区での災害への備えを強化するため、北部備蓄拠点を整備します。

その他、被災地区の地域集会所への補助や復興住宅の外構整備など、一歩進んだ復興まちづくりを進めていきます。

コロナ禍の影響を受けて、避けて通れないことを、皆様にお伝えしなければなりません。

1点目は、桃太郎線LR T化基本計画策定の、一時中断であります。基本計画については、今年度末に策定予定でしたが、2月9日の岡山市とJR西日本との3者協議の結果、苦渋の決断にいたりました。しかしながら、市民の交通利便性が向上する桃太郎線のLR T化については、諦めることなく、新型コロナウイルス感染症の収束状況を鑑みながら、一年に一度、3者協議を開き、再開するか否かを慎重に検討していきます。

2点目は、東京2020パラリンピックでイラン柔道選手団の事前キャンプを、我が総社市に誘致することが内定しておりましたが、イラン・イスラム共和国パラリンピック委員会から、日本国内での移動を最小限にとどめるため、総社市をキャンプ地として訪問することができないという連絡が

ありました。非常に残念なことですが、一度はホストタウンを決めた以上、イラン柔道選手団を応援していきたいと思えます。

なお、昨年の市議会で議決をいただいております令和3年4月使用分からの水道料金の値上げは、一時見送ることといたしました。これは、コロナ禍の影響を受けた市民の生活及び経済活動に配慮したものであり、値上げを一旦廃止する条例案を今議会で上程しております。料金改定については、今後の状況により再検討いたします。

2) 新型コロナウイルスワクチン接種

次に、新型コロナウイルスワクチン接種についてです。先週から岡山県でも医療従事者へのワクチン接種がスタートし、その波がいよいよ総社市にもやってまいります。本市においては、早ければ4月から始まる、高齢者へのワクチン接種を着実にスタートさせるべく、正確な情報発信と確実な体制整備を2本柱に、万全の準備を整えていきます。去る2月19日に、感染症対策専門家会議を開催し、座長である長崎

大学の山本太郎教授をはじめ、大阪大学でワクチン開発に尽力されている、総社市出身の森下竜一教授にも参加していただき、ワクチンの副反応を含めた、安全性と有効性、接種方法などについて貴重な知見をいただきました。会議では、2月17日から18日にかけて、市民908名に実施した、ワクチン接種希望アンケートの結果を基に議論が行われ、34%の方が接種を迷っているということが明らかになりました。その理由として多かったのは、副反応や効果が分からないから不安があるというものでした。この結果を受けて、市民の皆様、特に接種を迷っている方々に、ワクチンを正しく理解してもらい、希望する市民が安心して接種に臨めるよう、正確な情報を発信していくことが、我々自治体の使命であると考えております。このことを念頭に置き、会議でのご意見を踏まえ、市民の皆様に向けた、分かりやすい解説やメッセージを発信していきます。具体的には、専門家会議での議論を踏まえたワクチン接種の解説チラシを、市民の皆様配布するとともに、説明会を開催する予定としております。また、本日午前9時に、ワクチンコールセンターと対面相談

を行う窓口を開設いたしました。市民の不安や相談に丁寧に対応していきます。

さらに、接種体制については、集団接種と市内の医療機関での個別接種を組み合わせた、総社流の体制の構築を進めています。現在、ワクチン接種券の発送準備を進めており、早ければ3月中旬から、65歳以上の方々へ順次発送する予定です。接種券が届きましたら、自分がワクチンを受けたい会場や医療機関を選び、事前に電話などで予約を取り、接種をしていただくようになります。今回のワクチン接種は、16歳以上の方を対象としており、先のアンケート調査を参考に、接種を希望する方の人数を、約4万8千人と試算しています。ワクチンが予定通り供給される前提で、これらの方の2回接種を、6ヶ月で完了させるには、1ヶ月で1万6千回、1日平均750回の実施が必要になると見込まれます。

去る2月23日に、集団接種の予行演習を実施しました。当日は、吉備医師会、歯科医師会、薬剤師会といった医療関係者の方々に多数ご協力いただき、医学的な視点から、動作や流れの確認を行いました。また、被接種者として、各地域

づくり協議会の方や外国人の方といった、市民の方々に多数参加していただきました。実際の接種会場に近い形で実施することにより、さまざまな課題が見えてきました。

まずは、1時間80人接種を想定していましたが、実際には60人の接種にとどまったこと。これにより、集団接種と個別接種の割合を若干見直す必要があること。それに関連して、各医療機関までのワクチン輸送方法を確立していく必要があること。集団接種の方法として、1階で基礎疾患など配慮が必要な方とそうでない方の選別を行い、会場を分ける総社流方式が非常に円滑であったこと。外国人や障がいのある方は、より時間がかかるため、事前説明が重要であること。また、予診票をきっちりと書いていただくこと。肩が出しやすい服装で来ていただくこと。これら多くの課題を、我々と医師、歯科医師、薬剤師、看護師の方々と総力を挙げて克服し、改善して、より確実な接種体制を構築していきます。そして、本番の予防接種に向けて、一致団結して全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様また市議会の皆様にもご協力賜りますようお願いいたします。

(1 1月議会での検討について)

ここで、1 1月議会での検討事項につきまして、その結果をご報告いたします。

頓宮議員から、有機栽培の野菜等の給食への使用について、ご意見をいただきました。これについては、既に有機栽培のニンジンも多く取り入れておりましたが、新たに1 2月1 1日の給食で、市内産有機栽培ホウレン草2 1 k gを使用いたしました。今後も可能な限り取り入れていきたいと思っております。

深刻なコロナ禍においても、総社市の人口は増加を続け、この事実は、私たちの政策を後押しする原動力になるとともに、未来に明るい希望の光を照らしてくれています。4月から実施されるワクチン接種を必ずや成功させ、コロナを乗り越えた先の未来を、市民の皆様とともに笑顔で迎えたいと、私は切に願っております。そのために、今は、がむしゃらにすべてを投げ打ってでも、コロナの収束に尽力していく覚悟であります。

議員の皆様をはじめ、市民の皆様におかれましても、より

一層のご理解と、ご協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。